



出尻の延命地藏尊

現在村中に地藏堂があるが、寛保元年（一七四一）施主 清右エ門の銘がある、御丈三八センチの延命地藏尊が安置してある。堂宇の建ったのは明治二十六年陰曆三月十日の「越後国三島郡寺泊町大工棟梁米谷馬吉三十二歳 外二名」の棟札がある。

2、戸数の増減 寛文五年（一六六五）

には一三軒とある。心光寺の移転はその後であったから、水災のため村の西縁を削りとられ、戸数も文化六年の風土記には単に八軒とある。鶴沼川の堤防構築が進み、開田も、寛文五年の五町三反歩より現在の二二町一反歩へと急増し、畑も二町五反が五町八反となって、現在の戸数は一七戸にまで伸びている。

付 寛文五年書上げ

出 尻 村

一、若松の西北行程十二里有、南北一町三十二間、東西三十間、家居乱にして図何れとも難記、村建始の年号並名出尻村と由来不詳。

一、家十三軒、籠十五、男三十九人、女三十四人、馬七疋、年々増減有。

一、田五町三反、内一町三反土色黒くして砂交、三町七反土色白野土、三反土色赤くして砂、二反下の下、土の位並して下の上。

一、畠二町五反六畝四歩、内四反六畝四歩土色黒くして砂交、二町一反土色赤くして砂交、土色並して赤し、但二分黒、八分赤、

二反上の中、三反六畝四歩中の中、一町二反下の下、八反下の下、土の位並して下の上。